



もっと知りたい と出会う

朝日新聞社の提供する小中高校向け記事データベース「朝日けんさくくん」が、全国の学校で活用されています。作家の特徴を調べる授業や、英語ディベート部の活動など、高校の現場を訪ねました。

作家・小説・その時代 どんどん深掘り

法政二中・高(神奈川県)

作家や文学作品の特徴をデータベースの記事検索を通して学ぶ授業に、法政二中・高(川崎市)が取り組んでいます。10月は、安部公房(1924-93)が題材でした。

国語科の黒田学教諭が担当する高3対象の「日本文学特講」。冒頭で黒田学教諭が「まず亡くなった当時の記事を探して読んでみましょう。人生や作品の特徴について詳しく書かれた記事が多いはず」と提案しました。生徒たちは亡くなった



「日本文学特講」で、データベースを使う法政二中・高の生徒と黒田学教諭＝川崎市

安部公房 どんな人？ 作品の特徴は？

翌日の天声人語や社説など数多くの記事をチェック。黒田学教諭は「社会への影響が非常に大きい作家であったことがわかる」と解説しました。

その後、生徒たちは公房を理解する上で重要だと考えたキーワードをグループで議論。「自由」「前衛的」などを入力し、興味を持った見出しの記事を探して読みました。「満州で育ったことが、作品の『普遍性』につながったのでは」「医学も学び、視野が広がったのでは」などと感想を発表。吉澤優衣さんは記事中にあった、作品の特徴を

表現する「発明」という言葉に注目し、「常識にとらわれない、創意工夫にあふれた作品が多かった」と話していました。

この授業では年間を通して作家数人の作品を読み進めながら、データベースを活用しています。「大学の学問、研究を意識し、主体的な姿勢を身につけてほしい。作家が活躍した時代の背景も学んでほしい」と黒田学教諭。

授業は学校図書館の学習室で実施。室内には公房の著書約20冊が、すぐ手に出来るように用意されています。中学の総合、高校の探究学習や情報などの授業でもデータベースを活用しており、やはり図書館に移動し、50台ある貸与パソコンを利用します。蔵書数は約6万5千冊で、蔵書検索システムやオンライン辞書も使えます。深澤佳世子館長は「様々な情報にアクセスしながら学べる環境なので、データベースの活用も多い」と話していました。

静岡県立三島北高の英語ディベート部は、主張の根拠となる資料の収集や表現を学ぶために、「朝日けんさくくん」の英文ニュースデータベースを活用しています。10月にあった高校生英語ディベート県大会で優勝し、12月の全国大会出場を決めました。

三島北高(静岡)

ディベート大会 英文ニュース活用



三島北高の英語ディベート部の生徒たち＝静岡県三島市

今年の論題は「日本政府は、代理出産を合法化すべきである。是か非か」。論題が発表された春以降、まず日本語記事の検索からスタート。「代理出産」「代

理母」「貧困」など関連キーワードを調べ、問題の概要や背景の理解を進めました。その後、英文ニュースで同様に「SURROGACY(代理出産)」などを検索。記事中の事実や主張を学び、引用することもありますが、引用することもあるといます。「省庁や研究機関などの情報とともに、信頼性が高い」と泉部長。顧問の教員オン・カイミンさんは、同じ内容の日本語と英語の記事を比較し、単語や表現のニュアンスの違いを学ぶことが重要だといっています。「日本語はあいまいな表現が多いが、英語ははっきり意味を限定することが多い。比較することで表現力を高めてほしい」

「朝日けんさくくん」は小中高校向けの記事データベースで、1985年以降の記事が検索できます。クラス全員が同時に、タブレットやスマホなどそれぞれの端末で利用できます。

SDGsのゴールを意識して記事を選び、課題や気づきを自由に入力出来るデジタルふせんを今月、リリース。朝日新聞社の英語版ニュースサイト「The Asahi Shimbun Asia & Japan Watch (AJW)」の記事を検索できる英文ニュースデータベースや、記事の切り抜きにタイトルやコメントを記入して保存できる「メモ機能」も、今年度から利用できるようになりました。

ご契約プランは、同時に50アクセス使える「クラスタイプ」と、昔の紙面や広告を検索できる「朝日新聞クロスサーチ」も使える「スクールタイプ」。無料トライアル(1カ月)を受け付け中です。学校外からもログイン可能な特約付きプランもあります。

詳細はサイト(<http://www.asahi.com/information/db/kensaku.html>)へ。

教員や生徒の「道案内」 授業・受験面接…ニーズ様々 浦和第一女子高(埼玉) 司書の木下通子さん

約15年間、「朝日けんさくくん」を活用してきました。探究学習や各教科の授業から、大学受験の面接準備など個々の生徒のニーズまで、その場面は様々です。

例えば、勤める高校の日本史。9月下旬の授業で、関東大震災から100年がテーマになりました。「一方的に伝えるのではなく、生徒の関心から考えさせたい」と担

当教諭から事前に相談を受け、活用を提案しました。生徒たちはグループで意見交換しながら検索。被災した多くの画家が地元の浦和に移り住み、創作活動を続けたことを伝える記事を探すなど、新しい発見があったようです。

まず、学校で生徒たちが何かを調べたり、探したりする「入り口」として使うことを勧めます。

さらに深く学びたい、ということになれば、詳しい本や論文の紹介につながられます。

生徒自らがキーワードを入れて検索出来ることと、記事の「情報の速さと正確性」が、記事データベースの魅力ではないでしょうか。ネットにあふれる情報の見極めは、生徒たちにはハードルが高いことも多い。だから、記者が責

任をもって事実関係を確かめ、言葉を選び、コンパクトにまとめている情報は頼りになります。

学校図書館は、校内の「プラットフォーム」だと思います。教員や生徒に「道案内」をしていく場所であるべきです。「朝日けんさくくん」は、大きなツールの一つだと考えています。

(聞き手・吉田海将)



きのした・みちこ 1964年、東京生まれ。85年から埼玉県の高校司書。現在、浦和第一女子高に勤務。6月に2冊目の岩波ジュニア新書「知りたい気持ちに火をつける! 探究学習は学校図書館におまかせ!」が出版された。

◆「朝日けんさくくん」お問い合わせ先

朝日新聞社 IP事業部 データベースサポート
メール dna-support@asahi.com